

教職員情報

連載第14回

京大植物園観察会

■第52回 観察会のお知らせ

日時: 7月26日(木) 12:05~12:55(許可申請中)

場所: 京都大学理学部附属植物園

『虫たちのえさと住みか』

ガイド: 吉本治一郎さん(京都大学農学研究科)

植物園前に集合してください。

第48回 京大植物園観察会レポート

2007年3月22日(木) 12:05~12:55 晴れ

テーマ『春の雑草』

ガイド: 三浦 励一(京都大学農学研究科)

彼岸にはいってから強い寒の戻りがあって、どうなることかと心配していたのですが、当日は春らしい陽気にめぐまれ、「このお天気だけで半分以上は成功」と決め込んで植物園に向かいました。私は雑草、それもとくに農耕地の雑草を専門にしています。雑草は人間が自然を壊したところに生えるものです。植物園は(植物園にもよりますが)なるべく環境を自然のままに保つように管理されているところですので、雑草にとっても私にとっても、じつは苦手な場所です。雑草をなくそうと思ったら、とらずに放って



▲ガイドの説明を聞く

おけばよい。やがて遷移がすすんで森林になる。というような意味のことを、生態学者の宮脇昭先生が書いておられました。あの美しい植物園では、雑草たちはそういう意味で、苦しんでいるように私には見えました。だからといって、雑草に手助けしてやる必要はもちろんありません。植物園を一步出たところで、雑草たちは我が世の春を謳歌しております。

今になって思えば、お話しすることはいろいろあったのですが、慣れないこともあって、目についた雑草の名前を説明しているばかりで時間がすぎてしまいました。キランソウ、カテンソウ、イモカタバミ、オランダミミナグサ、ミドリハコベ、イヌコハコベ、トキワハゼ、ムラサキサギゴケ、ミチタネツケバナなどは花が咲き始めたところで、ヤエムグラ、ノビル、オオバコなどはつぼみもまだこれから。スズメノカタビラは誰にも気づかれずに冬の間もずっと咲いていたようです。木の花もあったのですが、下ばかり気にしていたので記憶にありません。木陰ではユキワリイチゲが、さすがに雑草とは異質のあでやかさを見せていました。



▲イモカタバミの群落



▲ヤマネコノメソウ

参加者数が予想以上に多かったのはうれしい驚きでした。後ろのほうになってしまった方は声が聞こえずにもの足りない思いをされたようです。資料が不足したことも合わせて、お詫びを申し上げます。

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

「ひとつまえにもどる」

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..